



はじめに（サイエンスは理科でも科学でもない）

まず、こんなことを、あなたはお考えになったことはありませんか？
なぜ、日本では大学に入るとき、大学そのものではなく、志望大学の学部ごとに入学試験を受けなければならないのか？

（アメリカでは、専攻は2年時を終えてから。したがって、入学は大学そのものに入る）
また、なぜ、日本には、文系、理系などという分け方があるのか？
そして、ではなぜ、心理学は文系なのか？（心理学

は、社会科学なので科学の一分野。つまり本来は理系。欧米はではそうない）
さらに、経済学は、文系、理系のどっち？（これも、文系ではなく理系である）

このように、日本の学問体系は世界とは異質で、さらに、学問・教養の入り口とされる「リベラル・アーツ」が確立されていません。つまり、日本の大学教育（初等教育、中等教育も）は、欧米世界から見るとデタラメをやっているのです。

こんなことは、日本の教育だけを受けてくると、考えもしませんが、私は、娘をアメリカの教育システムで育てたので、いつも考えさせられました。

そこで、本稿では、欧米では当たり前の「リベラル・アーツ」教育とはどんなものかを考察し、そのうえで、学問とはなにか？
なぜ、日本の高等教育は、欧米とは異質で、ある意味でデタラメなのかを、解明してみたいと思います。



私の娘は、幼稚園からアメリカン・スクールに通い、大学、大学院

はアメリカと中国で過ごしたので、一度も日本の学校に通ったことがありません。だから、日本語と同じように英語もネイティブですが、その娘が高校生のとき、こう私に聞きました。

「サイエンスを日本語ではなんて言うの？」

それで、私は「理科だよ」と答えました。英語圏では、初等教育（小学校）で「サイエンス」と言えば、それは「理科」のことだからです。すると、娘は怪訝な顔で「じゃあ、経済学や心理学も理科なの？」と聞き返してきました。ここで、ふつうの日本人なら、「いや違う。それは、文系だから、理科じゃない」と答えるでしょう。

私は、最初、娘の質問の意味がわかりませんでした。娘がサイエンスを「学問、とくに科学」の意味で使っていることがわかったので、「そうだよ」と答えたのです。

すると、娘は「日本語ってなんか変だよ」と言うのです。

理科も科学も学問も、英語ではぜんぶ「サイエンス」です。これで問題ありません。しかし、日本人にとって、「経済学や心理学が理科」

というのは、納得がいかないでしょう。娘も日本人である以上、同じように違和感を覚えたのです。だから、わざとこんな質問をしてきたというわけです。

以来、私は、この違和感を解消するため、なぜ、「サイエンス」が日本語では、「理科、科学」の意味に限定されているのかを調べました。そうして、初めて、欧米の学問の大系がどうなっているのか、やっと理解したのです。

日本で高校まで過ごし欧米の大学に留学した人でも、この「サイエンス」の本当の意味を理解していない人が多いのに驚きます。なぜ、大学で心理学を専攻して卒業すると、「BS」（bachelor of science：バチェラー・オブ・サイエンス）の学位がもらえるのか、最後に付いているscience（サイエンス）がなにかわかっていないのです。

じつは、日本の大学教授でさえ、このことがわからない人がいます。そうでなければ、「文学部心理学科」などのような学科が存在するわけがありません。

2008年4月に、私が編集長を務める光文社ペーパーバックスの編集部

では『間違いだらけのMBA』（喜多元宏・著）という本を出しました。じつは、このなかの第4章に、これから書くことは詳しく解説されています。この第4章の内容はほとんど、私が著者の喜多氏に提供して構成したので、ここからは、その原稿をもとにして、書いていきます。

なお、ここからは文体を変えます。「です、ます」調ではなくなります。

世界規模で共通化される高等教育

現在の日本の高等教育システム（higher education system）は、欧米とはまったく異質のものである。なぜ、こうなったのかは推測の域を出ないが、明治時期に欧米の教育システムを日本に移植する際に、数々の誤解、勘違いが生じたためだと思う。

それでも、それはたいした違いではない、問題はないという人もいるが、私にはそうは思えない。なぜなら、この違いがあるから、日本は欧米をいまだに理解できな

いし、文化、経済、政治など、それこそあらゆる分野で、世界との大きなギャップが生じているからだ。

現在、世界の高等教育は共通化、統合化が進んでいる。これは、グローバル化が進んだためで、高等教育においてもグローバル・スタンダード（世界基準）を決めないと、なによりも人材の評価ができなくなるからだ。

グローバル化が始まる前まで、教育は、各国が独自で国民に提供するものだった。しかし、グローバル化したいまの世界では、各国が独自で教育をやり、そのプログラムに沿って学位を認定しては、そこで育つ人材には、当然、バラツキが出る。そうすると、もっとも困るのは企業である。同じ

「大学卒」といっても、アメリカの大学卒、日本の大学卒、中国の大学卒、フランスの大学卒では、どこがどう違うのか？——これがハッキリとしなければ、企業は人材を採用できない。国内だけでビジネスをしている企業は別として、グローバル展開している企業はとくに困る。

そこで、各国の大学を比較して、その教育の質、レベルを測る「世界基準」が必要となってきた。現在、この動きは進んでいて、国際機関を中心にしてガイドラインづくりが行われている。

たとえば、UNESCO（ユネスコ）やOECD（経済開発協力機構）などがその旗振り役となって、加盟国に対して「大学の国際的な認証評価制度の構築」を呼びかけている。現在、アメリカ

などで行われているような大学の格付けを、もっと大きな規模で行おうというのだ。そして、これをインターネットを通して発信し、受験生にも卒業生を採用する企業にも自由に提供するという計画が進んでいる。

このままでは日本の大学はランキングを落とす

ところが、日本の大学は、まったく異質な教育システム、学問大系で運営されているから、評価すらできない。とすると、いちばん困るのは、じつ

は、そういう異質さを知らずに日本の大学に入ってしまった学生たちである。日本の将来を担う彼らが、世界とズレてしまっては、日本はますます衰退するし、
なにより、彼らがかわいそうだ。

現在でも、日本の大学は、世界的な「大学ラ

ンキング」では順位が低い。たとえば、有名な英国『タイムズ』紙が毎年発表している「THES」（The Higher Education Supplement）の「THE-QS世界大学ランキング2008年版」では、東大は19位だ。トップ100まで見ても、日本の大学は、京大が25位、大阪大学が44位とみな国立で、私大にいたっては早稲田がなんと180位である。

ちなみに、このランキングのトップから15位まではみな英米の大学である。腐っても世界第2位の経済大国の一流大学が、この順位でいいわけがない。

＊THE-QS世界大学ランキング：www.topuniversities.com/worlduniversityrankings/

とすれば、このまま、世界とズレたシステムを続ければ、日本の大学のランキングはもっと下がるだろう。なぜなら、大学評価の世界ネットワークができてしまえば、日本の異質さが世界中に知れ渡ってしまうからだ。つまり、日本の「大卒」の価値は、世界レベルで暴落することになる。いま、日本の多くの大学が、海外の大学と交流協定を結んでいるが、自らを世界標準に合わせないでこ

れを進めて無意味である。

くり返すが、なにより、学生がかawaiiそうだ

。

では、日本の高等教育のどこがどのように異質なのだろうか？

なぜ卒業大学ばかりが重視されるのか？

まず指摘したいのは、日本では「学術・学問体系」（アカデミア、academia）の構造そのものが、世界と根本からして違うということだ。

たとえば、冒頭に書いたように、西欧の学術・学問体系から見れば「文学部心理学科」などという「学科」disciplineはありえない。なぜなら、心理学はサイエンスscience（この場合、「科学」という科目ではなくあくまで学問という意味）であって、文学部では教えられないからだ。

「文学」literatureがサイエンスでないことは誰にも理解できる。しかし、なぜ、心理学が文学部の科目でない、つまり文系でないということに、一般の日本人は答えられない。経済学も同じで、経済学といえは、日本では文系になってしまうのは、なぜなのか？

単純な話だが、たとえば、日本では、就職でもっとも重視されるのが、学生の出身大学である。「うちは学歴採用はしていない」などと喧伝している大企業があるが、それはほぼウソである。そんなことは、学生のほうがよく知っている。

それはともかくとして、日本では、この出身大学に続いて、おおまかに文系か理系かが問われる。たとえば、これに「東京大学法学部」

「慶応大学経済学部」などと答えられ

ば、就職試験では最強であろう。しかし、これで、この学生のアカデミック・バックグラウンドがわかるであろうか？

なんと、日本では法学部も経済学部も文系なのである。

しかも、応募学生の評価を、こうした順序で捉えることも、欧米文化からすると異質である。

欧米では、大学名というより、まず「メジャー」（major、専攻）が第一で、続いて、その学位（degree）が「博士」（PhD）、「修士」（Master）、「学士」（Bachelor）のどれなのか、そして、その学位をどこで取得したか（Where did you get it?

:つまり大学名、教育機関名）という順序で捉えていく。とくにアメリカはそうだ。

また、日本では大学入学に際して、学

部を選ばなければならない。たとえば、東京大学法学部、慶応義塾大学商学部などと初めから決めなければ、その大学に出願できないことになっているが、これも、欧米から見れば異質である。とくにアメリカの大学は、このような選考方法はしない。出願者

は、ハーバード大学ならハーバード大学に、ユーペン（ペンシルベニア大学）ならユーペンに出願し、入学後2年を経て、そこで初めてメジャーを決めるようになっている。

大学院を高校と勘違いされて

アメリカには、ハーバード大学やユーペン、あるいは州立大学などの総合大学ばかりではなく、アマーست・カレッジやウィリアムズ・カレッジの

ような小規模なリベラル・アーツ・カレッジ（liberal arts college）もある。こうしたリベラル・アーツ・カレッジには、日本でいう学部はない。だから、学生は単にその大学に出願する。

ところで、日本のメディアの記者の多くは、こんなことすら知らない。だから、政治家や芸能人の留学詐称問題が起ったときの記事は、間違いだらけだ。たとえば、ある政治家の経歴に「1975年、ハーバード大学経済学部入学」などとあったら、これは、どう考えてもおかしい。初めから経済学部に入學するわけがないからだ。しかし、こうした経歴を鵜呑みにする

記者は多い。

いまは、MBAがもてはやされているが、これは、master of business administrationの「学位」degree（修士号、master degree）だから、大学院を卒業してもらえる。ところが、アメリカの大学院には、「プロフェッショナル・スクール」professional schoolと「グラデュエイト・スクール」graduate schoolの2つがあり、MBAコースはプロフェッショナル・スクールのほうに属す。しかし、この「プロフェッショナル・スクール」を、一般

の日本人は大学院とは思わない。「どこの専門学校ですか？」と聞く人がいる。

私の娘の友人に、ユーペンのMBAコースである「ウォートン・スクール」（プロフェッショナル・スクール）の卒業生がいる。つまりMBAホルダーだが、彼は猛勉強して、学部からウォートンに進学した。ちなみに、ウォートンは会計学の分野では、世界一と称せられる名門大学院だ。だから、彼はウォートンを卒業して意気揚々として帰国した。

そして、ある人に「どちらに留学を？」と聞かれ、「はい、ウォートン・スクールです」と答えた

ら、なんと「それはどこにある高校です

か？」と真面目な顔で聞かれて、がっかりしてしまったという。一般の日本人は、「スクール」と聞いただけで、単に「学校」と思い込み、まさか大学院とは考えないのだ。

＊The Wharton School of the University of Pennsylvania

： www.wharton.upenn.edu/

しかし、これでは、わざわざ名門ウォートン・スクールでMBAを取得したことがなんにもならない。ただし、こういう一般の日本人を責めるわけにはいかないのも、確かだ。なぜなら、私だって娘をア

メリカン・スクールに入れ、アメリカの大学に留学させなかったら、こんなことすら知らなかったかもしれないからだ。

自然「Nature」とはなんだろう
か？

というわけで、日本と欧米の本質的な違いを、順を追って説明してみたい。

まず、学術、学問とはなんであるかだが、その前に、私たち人間が住む世界の認識からして

、欧米世界と日本は違うということ
を述べたい。なぜなら、これを
述べないと、すべてが理解でき
ないからである。私も最初、こ
れがわからなかった。

「世界」（この世）というの
は、英語ではworldである。そ
して、この世界は「自然」na
tureで成り立っている。私たち
人間は、この自然の一部a part
of natureである。では、「自然」
を辞書で引くとなんと書いてあ
るだろうか？

『広辞苑第五版』（岩波書店）

によると、「おのずからそうなっているさま。天然のままで人為が加わらないさま。あるがままのさま。」と

か「山川・草木・海など、人類がそこで生まれ生活してきた場。とくに、人が自分たちの生活の便宜から改造の手を加えていないもの。」となっている。これ

が、私たち日本人が認識している「自然」である。

では、次にnatureを『MSN Encarta』で引いてみると、なんと書いてあるだろうか？「1.

physical world: the physical world including all natural phenomena and living things」 「3. countryside: the countryside or the environment in a condition relatively unaffected by human activity or as the home of living things other than human beings」 となっているから、欧米人も日本人と同じように、「自然」を認識していると思うに違いない。

しかし、これがとんでもない

誤解なのだ。

というのは、これは大人の的な認識、辞書的認識であって、もっとシンプルに見ると、natureの本来の意味は「things God made」（神様がおつくりになったもの）である。要するに、人間がつくったものの意外は、みなnatureなのだ。実際、欧米の母親は子どもに「ネイチャーってなに？」と聞かれたら、こう答えている。

これは、欧米世界が「キリスト教世界」Christendomだからである。

神がつくった世界の法則を見つけるのが「学問」

こうなると、欧米人の頭のなかは、私たち日本人とは違うというのがわかる。神がつくったのが「自然」（nature）であり、私たち「人間」

（humans）はそのなかの一部というのが、欧米人の世界観worldviewであり、ここから、学術、学問など、すべてが体系化されて認識さ

れると、 考えてよい。

すなわち、神がつくった世界（nature）を貫く法則（rule）を見つけ出すのが、「学問」（サイエンス、science）である。だから、欧米では、多くの学位に「science」がつく。経済学にしても心理学にしても、大学で授けられる学位の「BS」「MS」の「S」はscienceのことである。ちな

みに、「B」はbachelorのことで、学部卒業で与えられる「学士」であり、「M」はmasterのことで、大学院卒業で与えられる「修士」のことだ。

この学位に付く「science」を日本人は、単なる「理科」「科学」のことだと思っているが、それは単に翻訳してそうなっただけで、概念としては、日本語の「学問」のほうがよほど英語

のscienceの概念に近い。

おそらく、明治期にscienceを訳すときに、「理科」

「科学」としてしまい、本来の概念にまでたどりつか
なかったからだろう。

ところで、大学で授けら
れる学位には、「A」が付く
ものもある。すなわち、「B
A」「MA」などだ。では、こ
の「A」とはなんだろう？
これは、art（アート）のこ
とである。

「アート」とは人間が
つくったものの総称

「アート」
art というと、日本人
は逐語訳から「芸術」
をまずイメージし、「
絵画や彫刻」などを思
い浮かべる。そして、
派生語のartist
（アーティスト）とい
う言葉から、芸術家や

ミュージシャンなどを
思い浮かべる。もちろ
ん、これはこれで間違
っていないが、この連
想から、ではなぜart
が

大学や大学院というア
カデミックの世界で授
与される学位なのかは
、絶対に理解できない
だろう。

そこで、先に説明したnatureに立ち返って、そのなかで、artは神ではない人間がする行為のことすべてを指す言葉であるということを、まず認識してほしい。

実際、英英辞典を引いてみれば、artはたいてい「human effort

to imitate,
supplement, alter,
or counteract the
work of
nature.」のように説
明されている。つまり
、artとは「人工」と
いうことである。神が
つくったものに対して
、人間がつくったもの
がartなのである。

これは、naturalの
反対語がartificialだ
とわかれば、わかって
もらえると思う。

ところが、日本の辞書
には、「自然（nature
）の反対語は、文化（
culture）」などとい
うものがあるから、誤
解を招く。私も、最初
は混乱した。

いずれにせよ、art
という行為は人間の
ものであるから、これを
研究、調査、実践した
ことによって与えられ
る学位がartと言え
ば、わかりやすいと思
う。つまり、哲学、文
学、歴史、美術、建
築、音楽などの科目
は、ここに属してい
る。

そこで、日本でよく使われる「学術」という言葉だが、これは明治時代につくられた言葉であり、「学問」と「芸術」を合わせた概念と考えるので、「science＋art」のことと考えれば、欧米世界との整合性が、ある程度とれてくるのではなか

ろうか。

ただし、artの学位
が与えられる文学、歴史、
美術などの学科は、
「humanities」（ヒューマニティーズ）
と言われている。これを、
日本語では「人文」と訳している。
では、このヒューマニティーズとはなんだろう？

ヒューマニティーズ
というのは、「人間が
これまでartしてきた
ことを研究し、さらに
発展させること」と考
えればいい。もっと言
え
ば、たとえば文学作品
を読み込んで、それが
書かれた時代を研究し

たり、古文書や石碑の文の解釈をしてみたり、新しい芸術作品を生み出したりするという こと である。

つまり、これはサイエンスscience（学問）ではない。

ところが、日本では驚くべきことに、この「人文」（ヒューマニ

ティーズ）に「科学」を付けて、「人文科学」などと呼んでいるから、一般人はわけがわからなくなってしまうのだ。これでは、学問の体系など、あってないがごとくである。

その結果、「文学部心理学科」などいう、

本来サイエンスとされるものが文学部にあるという、ありえないことが起こる。さらに、ここに、「文系」「理系」という分け方が加わると、もう、この混乱は收拾がつかなくなるのだ。

サイエンス（学問）には、大きく分けて、

「自然科学（学問）」
（ナチュラル・サイエ
ンス、natural
science）と「社会科
学（学問）」（ソーシ
ャル・サイエンス、so
cial
science）があるが、
心理学は社会科学であ
る。また、経済学も経
営学も、政治学、法学

も社会科学である。これを文学や歴史などと同じく「文系」と言ってしまうえば、もはや取り返しがつかない。

サイエンスの発展が近代社会をつくった

では、ここから、
学問の体系というもの
のを、歴史的、俯瞰
的に見てみよう。

学問（サイエ
ンス）というものの
基本的立場は、自然
界の法則性の発見で
ある。つまり、この

世界が神（God=Creator）によってつく
ら
れたかどうかはとも
かく、そのなかにあ
る「自然法則」rule
of
natureを見つけ出し
て研究し、それを人
類の生活に役立てる

ということである。

こうした立場
が確立したのは、西
欧世界においては、
16世紀以後のこと
である。ただ、『オ
ックスフォード英語
辞典Oxford English
Dictionaryの「scie

nce」の項には、「
直接何かの役には立
たない学問。世界の
根源を探求する学問
」とあるので、サイ
エンスと言った場合
は、純粹に学問のこ
とを指す。したがっ
て、この「世界の根
源を探求」とい

うことは、「この世は神がつくった」というキリスト教的 세계觀とは厳しく対峙する。なぜなら、学問（サイエンス）を究めていくと、結局は「神など存在しない」（God isn' t.）というこ

とが証明されてしま
うからだ。

じつは、西欧
世界というのは、こ
の学問が発達したこ
とによって、神の世
界から抜け出して、
私たちがいま暮らし
ている近代社会（mo

dern
society) になった
のである。つまり、
サイエンスが近代社
会をつくったと言っ
ても過言ではない。

しかし、日本には
こうした歴史がない
。だから、西欧近代
の学問を大系的にと

らえられなかったの
だろう。

いずれにせよ、西
洋の「学問・学術世
界」（アカデミア、
academia）は、遠く
古代ギリシア時代の
アカデミー（academ
y）に始まり、中世
では、教会を中心に

して受け継がれ、やがて学術機関として大学を誕生させたことで、今日にいたっている。

そのなかで学位が誕生し、サイエンスもヒューマニティーズも発展してきたのだ。

大学の発展と学問の細分化

一般的に、西欧の大学の起源は、11世紀～12世紀頃とされる。ヨーロッパ最古の大学としては、1088年にイ

タリャで開設された Alma Mater Studiorum（いまのボローニャ大学）が知られている。また、1209年にイングランドのオックスフォード大学が誕生し、フラン

スのパリ大学も時
を
同じくして誕生し
ている。

このような中世
ヨーロッパの大学
は、たいてい4学部
から成っていた。
神学部（School of

Divinity：キリスト
教聖職者の養成
）、法学部（School
of

Law：法律家の養成
）、医学部（School
of

Medicine：医師の
養成）の3つと、哲

学部（School of Philosophy）である。最初の3学部の目的は、いずれも聖職者、法律家、医者という専門家の養成であった。

つまり、大学というのはもともと

専門家の養成機関
だったのである。
そして、これらの
専門家養成のアカ
デミアの領域（fie
lds of
study）を、「disc
ipline」（ディス
シプリン）と呼ん

だ。日本語にすれば「学科」になるが、この「discipline」は、その後どんどん細分化・専門化していった。

新大陸アメリカでも大学はつくら

れた。ハーバード
大学（Harvard
University）は163
6年に、ユーペンこ
とペンシルバニア
大学（University
of
Pennsylvania）は1
749年に誕生してい

る。この間、西欧各国は国家機関として、大学を中心とするアカデミーを持ち、そこで学術研究がさかんに行われたが、産業革命以後は、その領域が飛躍的に

増えた。

たとえば、「心理学」 psychology
、「社会学」 sociology、
「政治学」 political
science、「経済学」
economicsなどの
ソーシャル・サイ

エンスが確立され
、「遺伝学」 genetics、
「生理学」 physiology、
「物理学」 physics
などのチューラル・
サイエンスも急速
な発展を遂げ、今
日の大学の基本的

な学問の諸分野が、
ほぼ出そろったこと
になったのである。
。

そして、20世紀
からの技術・経済
の発展と、20世紀
後半から始まった
グローバル化によ

り、学問領域はさらに細分化し、サイエンスには「アプライド・サイエンス applied science」（応用科学）と呼ばれる「エンジニアリング」 engineering（工

学）などができ、
コンピューターの
発達により、「コ
ンピュー
ター・サイエンス
」 computer
science もなども誕
生した。

ちなみに、西洋

概念のアカデミー
（学術をつかさど
る機関、組織）と
しての大学は、東
洋においては、3世
紀頃に中国の南京
（当時の金陵）に
できている。

私事だが、この

南京大学に、私の娘はジョンズホプキンス大学国際研究大学院（SAIS）の学生として留学した。それは、SAISがアメリカの大学では初めて、20年以上前に南京大学

と提携したからだ
った。

* The Johns
Hopkins
University-Nanjin
g University
Center for
Chinese and
Amer i can

Studies : nanjing.
jhu.edu/index.htm
|

アカデミアの体系
と分類はこうなっ
ている

では、こうして
発展してきたアカ
デミア（サイエン
スとヒューマニテ
ィーズ）はどのよ
うに体系化し、分
類されるのだろう

か？

ここに、現在におけるおおまかな体系分類を示しておきたい。

List of Academic Disciplines

（学術・学問 学科一覧）

（１） Humanities ヒューマニティーズ （人文）

1.1

History（歴史）

1.2

Philosophy（哲学
）

1.3

Religion（宗教学
）

1.4

Languages and
linguistics（語

学&言語学)

1.5

Literature（文学
）

1.6 Visual
arts(視覚芸術、
絵画、映画など)

1.7

Architecture,
design and
applied
arts（建築、デザ
イン、工芸など）

1.8

Performing
arts（芸能、音楽

、演劇など)

(2) Social
sciences

ソーシャル・サイ
エンス(社会科学)

2.1

Anthropology (人

類学)

2.2

Archaeology（考古学）

2.3 Area studies（地域研究）

2.4

Economics（経済学）

2.5 Ethnic studies（民族学）

2.6 Gender and Sexuality studies（ジェン

ダー＆セクシュア
リティ研究)

2.7

Geography（地理
）

2.8

Political
science（政治学

）

2.9

Psychology（心理学）

2.10

Sociology（社会学）

（３） Natural science

ナチュラル・サイ
エンス（自然科学
）

3.1 Space
sciences（宇宙科
学）

3.2 Earth
sciences（地球科
学）

3.3 Life
sciences（生命科
学）

3.4
Chemistry（化学

）

3.5

Physics（物理学
）

（４） Professions
and Applied
sciences

プロフェッションズ & アプライド・サイエンス（専門職 & 応用科学）

4.1

Agriculture and forestry（農林）

4.2

Business（ビジネス）

4.3

Education（教育）

4.4

Engineering（工学、工業技術、工

ン지니어リング)

4.5 Family
and consumer
science (家族&
消費者)

4.6 Health
sciences (健康科
学)

4.7

Journalism,
media and
communication (
ジャーナリズム、
メディア、コミュニ
ケーション)

4.8

Law（法学）

4.9

Library and
museum

studies（図書館
& 博物館）

4.10

Military

sciences（軍事科学）

4.11

Personal service professions（個人サービス専門職）

4.12

Public
affairs（公共業
務専門職）

4.13

Social
work（社会福祉専
門職）

日本人の勘違い、 ！ 数学は学問では ない

さて、これを

御覧になって気が
がついた方もい
ると思うが、こ
の学術・学問大
系のなかに、「
神学」（Theolog
y）、「数学」（
Mathematics）、

「医学」（Medicine）が含まれていない。

これは、なぜなのだろうか？

これも、一般

の日本人が理解
できない点で、
じつは、これら
はサイエンスと
は言い難いから
である。

まず、「神学」

だが、これは中
世ヨーロッパま
ではアカデミア
の中核をなして
いたが、現代と
なっては学術た
りえなくなっ
ている。なぜ

なら、神が存在
することを前提
として存在する
学問だからであ
る。つまり、神
学というのは昔
においては、す
べての学問のい

ちばん上に位置
していたのだ。

ま
た、哲学と神学
を同一視する向
きもあるが、そ
もそも異なるも
のである。

次に「数学」
だが、これは「F
ormal
sciences」（フ
ォーマル・サイ
エンス、形式科
学：適切な訳語
なし）という分

類をされることが多い。ただ、
日本のように「
自然科学」には
分類しない。

数学を学問の
一種だと思っ
ているのは日本人

だけであろう。
なぜなら、数学
は自然界には存
在しないものだ
から、サイエン
スとは見なせな
いからである。
したがって、学

問をするための
ツールという位
置付けとなり、
現代の「コンピ
ューター・サイ
エンス」（Compu
ter
science）もまた

、フォーマル・サイエンスである。しかし、日本ではこれが工学部の学科になっていたりするので、啞然とする。

そして、「医学」だが、これは日本では自然科学と見なすことが多い。しかし、欧米ではほとんどが「応用科学」に分類し

、医者養成に関して、専門の
メディカル・ス
クール（プロフ
ェッショナル・
スクールの1つ）
が行うことにな
っているので、

この分類のほう
が妥当なのであ
る。

このように見
てくると、日本
の学術・学問の
大系分類が、い
かに欧米と異質

（あるいはいい
加減）であるか
がわかるだろう

○

「リベラル・アーツ」がすべての の学問の基礎

ここで、西洋
世界の学術・学

問の基礎とされている「リベラル・アーツ」liberal artsについても触れておきたい。これを日本で

は「教養学」と
訳しているよう
で、大学では「
一般教養」とし
て学部名になっ
ているところも
ある。欧米の高

等教育では、このリベラル・アーツがすべてのヒューマニティーズ、サイエンスの「入り口」（gateway）、

「基礎」（fundamentals）と考えられており、これらの科目を履修した後にメジャー（専攻）を決めるシステム

ムになっている

。

また、リベラル・
アーツに特
化した少人数の
リベラル・ア
ーツ・カレッジは

、いまでも名門
総合大学より高
い評価を得てい
る。しかし、日
本には、西洋か
ら輸入した教養
はあっても、元

のリベラル・アーツ自体がないから、大学教育、大学院教育の位置付け、あるいは学位認定が混乱するのだ。

リベラル・アーツの起源は、古代ギリシアまでさかのぼる。プラトンは、哲学の予備学とし

て、文芸や幾何学の必要性を説き、これを人間としての教養と考えた。この場合の人間は非奴隷ということだ

から、自由人（つまり市民citizen）には、こうした教養が要求されたのである。ローマ時代になると、自

由人に必要な諸
技術は「アルテ
ース・リーベラ
ーレース」(ar
tes
liberales) と
呼ばれ、これが

英語で言うところの「リベラル・アーツ」となった。

ローマ時代の末期、この自由人の技術は7つ

の科目に整理され、これはいまでも、「セブン・リベラル・アーツ」（seven liberal arts、「自由7

科」）として、
欧米の大学教育
では重視されて
いる。

「セブン・リベ
ラル・アーツ」
は、主に言語に

かかわる3科目
の「三学」
(トリウィウム
、Trivium)
と、主に数学に
関わる4科目の
「四科」

（クワードリウ
ィウム、Quadr i
v i u m）
の2つに分けら
れる。Tr i v i u m
（三学）が「文
法」（Grammar

）、「修辞学」
（Rhetoric）、
「弁証法（論理
学）」（Logic
）であ
り、Quadrivium
（四科）が「算

術」 (Arithmetic)、
「幾何」
(Geometry)、
「天文」 (Astronomy)、
「音
楽」
(Music) であ

る。 この上
に哲学があり、
さらにその上に
神学があるとい
うのが、この時
代の学術・学問
大系だった。

その後、中世
のヨーロッパで
大学が誕生した
際、この自由7
科は、学問の科
目として公式に

定められた。この伝統は西欧の大学ではいまでも生きており、さらに、西欧の体系をそのまま引き継いだオース

トラリア、カナ
ダなどでは、独
立した哲学部を
持つところもあ
る。

米国のニューイ

ングラントに多
いリベラル・ア
ーツ・カレッジ
に行くと、講堂
（オーディトリア
ム）の高みを、
ぐるりと7体の

女神像（goddesses）が取り囲んでいてということがある。この女神は、それぞれ7つの学科の「守り神」を表

している。

娘が留学した
東部のリベラ
ル・アーツ・
カレッジ

2001年9

月、私は、この7体の女神像のある講堂のなかを、妻と娘と3人で歩いていた。それは、娘の「New

Student Orientation」 （新入生オリ エンテーション の前日 で、私たちはキ ャンパスにあ

る建物を全部
見て回っていたのだ。

娘を東部の
リベラル・ア
ーツ・カレッ
ジに行かせる

のは、私の昔
から夢であり
、その期待に
応えて娘は、
メイン州のベ
イツカレッジ
（Bates

College) とい
うリベラル・
アーツ・カレ
ッジに合格し
、このときは
、「Convocat i
on」 （コンヴ

アクション
：入学のセレ
モニー）を控
えていた。

* Bates
College [www.
bates.edu/](http://www.bates.edu/)

「親が子ども
の大学の入学
式に着いて行
くなんてどう
かしている」
とも言われた

が、それは、
日本だけで通
用する常識に
過ぎない。い
まだ
に、大学の入
学式に親が出

席するのは過
保護だという
人がいるが、
私には信じが
たい。アメリ
カでは、入学
ウィークに親

が来ないとなると、なによりも子どももの
肩身が狭くなる。親が来ない
というのは、全額スカラ

ーシップでま
かなうような
貧困層の子だ
けだからだ。

アメリカの
場合、とくに

リベラル・ア
ーツのような
小規模の大学
では、コンヴ
ェーション
のある入学ウ
ィークには、

必ず親がやって来る。これは、留学生の親とて例外ではなく、ヨーロッパ、中東、アジア、ア

フリカからも
親たちは来て
いた。

こうして、
ほかの親や子
どもたち、大
学職員や教授

たちとパーティー
などで親交
を深め、子ども
もの入る寮（
ハウス）の部
屋を整えて帰
っていく。こ

の間、１週間
近くも大学で
過ごす親もい
る。私たちも
そうだった。
大学近くのモ
ーテルに泊ま

り、毎日、キャンパスに通った。

リベラル・
アーツ・カレ
ッジがいいの
は、なにより

も少人数で、
学生同士、教
職員と学生、
また親同士も
みな親しくつ
き合え、その
なか

で、子どもたちが育っていくことだ。たいていのリベラル・アーツ・カレッジでは学生と教師

の比率が20対1
以下で、日本
のようなマン
モス授業など
ありえな
い。また、学
生たちは、ほ

ば全員寮に入
るので、共同
生活のなかで
社会秩序や規
律も学ぶ。

森の上に浮かぶ
月と天空を
流れる天の川

メイン州
は、ヘンリー

・ ソローHenry
David
Thoreau（1817
～1862）が、
名作『森の生
活』（The
Life in the

Wood) で描いたように、ニューイングランド最北の森と湖の美しい州だ。ベイツカレッジは、

そうしたメイ
ン州の内陸の
小さな町、ル
イストン
（Lewiston）
にあり、キャ
ンパスの周囲

には深い森や
山があって、
キャンパス内
には小さな湖
レイク・アン
ドリュー（Lak
e

Andrew) があ
った。

ただ、人口3
万人ほどの町
はさびれてい
て、歩いてい
ても人通りは

少なかった。
メインストリ
ートといっ
てもほんの
数百メー
ートルで、
夜開
いているレ
ス

トランも2、3
軒しかなかった。
アメリカ
は車社会だから、
日本のよ
うに一極集中
的な街並みは

できようがない。
とはいえ、ほとんどの
商店がさび
れているのは
、周囲に大型
のショッピング

グモールやウォルマートができたせいである。

日本で地方都市の“シャッター通り”

が問題になる
以前から、ア
メリカでは地
方都市で同じ
ような問題が
起きていた。
ルイストンも

例外ではなく
、この町では
大学以外はま
ったく活気が
なかった。

私たち夫
婦は、そんな

町から2マイル
、キャンパス
から1マイル以
上離れたモー
テルに泊まり
、毎日、歩い
てキャンパス

に通った。寮
に入った娘と
別れて、夜、
森の中の道を
歩いてモーター
ルに帰るとき
、見上げると

一面の星空だった。東京では見られない無数の星が空高くまたたいていた。

天の川があ

れほどはっきりと空を流れるのを見たのは、このときが初めてだった。そして、森の上には、

大きな月がぽ
っかりと浮か
んでいたのを
、いまも鮮や
かに思い出す
。

「9.11テロ」

以後、劇的に 変った世界

娘の入
学ウィークが
終わって、妻

と帰国したのは、2001年9月12日だった。
テレビを着けると、
ニューヨーク

の街並みが映り、WTCが炎上しているシーンがくり返し流されていた。驚いて、

CNNに切り替
えると、しば
らくして、メ
イン州のポー
トランド空港
が映り、そこ

からテロリスト
トが飛行機に
乗ったとアナ
ウンスされて
いた。

私たちは、つ

いい20時間ほど
前に、そのポ
ートランド空
港からシカゴ
経由で帰って
きたばかりだ

った。

その後のニ
ュースで、「
9.11テロ」の
主犯とされる

モハマッド・
アタと仲間の
1人が、ポー
トランド空港
のチェックを
すり抜け、ボ

ス
トンのレーガ
ン空港に飛ん
だことを知っ
た。彼らは、
そこでアメリ

カン航空11便
（AA11）に乗り
替え、ニュー
ーヨークへと
飛び立った。
このAA11が、

WTCに突っ込
んだのである
。いま
思えば、「9.
11テロ」以来
、世界は劇的

に変わってしま
った。そして、
今回のアメリ
カ発の金融危
機で、世界は
またまた

大きく変わる
うと
している。格
差社会が世界
規模で広がり
、持たざる者

と持つ者の差
がどんどん開
いていったと
ころに、襲っ
て来たのが、
アメリカの金

融バブルの崩壊である。

いま、アメリカの大学では学費が払えず、中途退学

する学生が急
増している。
奨学金がスト
ップされたり
、 アルバイト
先がなくなり

、仕方なく大
学を去る学生
が出て、住宅
ローン破産者
以上に社会問
題になってい

る。

彼らの未来
もまた、強欲
なウォール街
の連中が奪っ
てしまったの

だ。 はた
して、今後、
アメリカの大
学はどうなっ
ていくのだろ
うか？

本来の「学 歴社会」と はなにか？

日本は
、よく「学
歴社会」と
言われるが
、本当の意
味の学歴社

会ではない
。私は、ア
メリカやイ
ギリス、フ
ランスなど
のほうか、

はるかに学
歴社会
だと考えて
いる。とい
うのは、日
本で評価さ

れるのは、
「大学でな
にを学んだ
か」ではな
く、単に「
どの大学を

出たか」に
過ぎないか
らだ。

これは、
学問も教養
も、専門知

識も無視し
ており、本
来の「学歴
社会」とは
言い難い。

「学歴社会
」というの
は、その意
味どおりに
取れば、「
学歴によっ

て社会的な
地位が決ま
る社会」と
なるだろう
。欧米では
、たしかに

そうなっ
てい
る。一
流
大
学
卒
と
い
う
ブ
ラ
ン
ド
価
値
も
尊
重
さ
れ
る
が、

どんな学位
を持ってい
るかで、い
い就職もあ
れば、地位
にも恵まれ

る。

しかし、
日本では、
学位などほ
とんど問題
にされない

○

なにを学
んだか、そ
の結果、ど
んな学位を
得たかを尊

重すること
を「学歴主
義」と言う
。これを英
語で言えば
、「クリデ

ンシヤリズム
ム」 credential
ialism（学
業成績を尊
重するやり
方）である

○

このクリ
デンシヤリ
ズムは「資
格主義」と
も訳せる。

というのは
、弁護士や
医者などの
資格も、こ
の言葉が意
味として内

包している
から
だ。そこで
、これに「
学問」をあ
らわすアカ

デミツクを
つけて、「
アカデミツ
ク・クリデ
ンシヤリズ
ム」 academi

C
credential i
smとすれば
、これこそ
が「学歴主
義」であり

、それを尊重するのが
、本来の「
学歴社会」
ではないだ
ろうか？

こうした
点からも、
日本の高等
教育は、一
刻も早く世
界標準に合

わせるべき
である。学
問大系も、
いまのまま
ではいいけな
い。入学前

に学部を決
めさせるこ
ともやめる
べきだ。ま
た、世界と
かけ離れた4

月入学も、3
年生でいっ
せいに就職
活動するの
も、やめる
べきだろう

○

グローバル
化で、学
術・学問体
系も世界で
統一化が進

み、どの国
で取得した
学位も、同
じ学位なら
世界中で通
用するよう

になってき
たいま、こ
のままでは
、学生も企
業も、そし
て社会も得

るところは
なにもない
。（了）

